

地区職業奉仕委員会



2660地区の多くのロータリアンが小学校・中学校へ出かけて行って、職業の話をする「出前授業」をして下さっています。今回はその授業を受けた学校側からの感想をお伝えします。

「職業って、仕事って お金とちがうんや」

大阪市立滝川小学校校長 三軒久枝

小学校5年生の子供に、担任が「仕事って何」というふうな大まかな質問をしたときに、子供たちの大半が「仕事って、お金をもうけることやん」こんなふうに言いました。私は、それが寂しいなあ、何とか子供たちに生きがいにつながるような形での仕事のお話しができないのかなと思っていました。その時、大阪そねぎきロータリークラブのメンバーの方に、子供達を大阪フィルハーモニーの練習見学に連れて行って頂きました。そこで、指揮者のすごさを見させて頂きました。その後で、小学5年生達が「なぜ、こんなに指揮者はすごいのかな」という話し合いをしました。オーケストラの指揮者という仕事は、音をまとめるとか、曲とし

ていいものをみんなに提供しようとか、みんなで心をそろえていこうとかをすごく感じながらやっている仕事であることが伝わってきたのです。小学生は、どうもこの仕事は、お金だけではないと感じたようです。これこそが、本物を体験していくことのすごさだと思いました。仕事って、お金だけではない、やりがい、いいものを作って、ということ、そちらに子供たちの心が随分動いていきました。仕事について、子供たちが直接に感じることができる成果を得られたと思っています。

また、ある時、ロータリアンの弁護士の先生にお越し頂きまして、6年生の社会科で「裁判の話し」をしてもらいました。それから裁判所の見学をさせて頂きました。

小学校では裁判のお話というのはそう深くは出てきません。政治のあたりで立法・司法・行政とか、三権分立とかいうような形のさらっとしたものが出てまいります。そこをさらっと学習した後に、ロータリアンの弁護士さんに来て頂きました。以

下は、裁判の話を書いて、実際の裁判を見た小学生の感想文からの抜粋です。

～感想文～

- 裁判所を見学して、裁判というのは人の人生がかかっているから、真剣に静かに見学しようと思った。人生が左右されるような重要な場面なんだから、自分たちは頑張って精いっぱい緊張しながら聞かないといけないんだと思った。
- 僕はニュースとかで見たり聞いたりしているから裁判のことは大体知っていると聞いていたけれど、知らないことの方がずっと多いということがわかった。
- 「悪いことをしたら死刑になったらいいねん」と、実は私は思っていた。だけど、その悪いことをした人にも事情があって、同じ罪を犯すにしても状況によっては違いがあるということを実体的に聞いた。それを聞いて、同じ犯罪をしても罪が軽くなるという場合があるということがとてもよくわかりました。
- 裁判ってとても心が重いと思った。被告人の気持、弁護人が罪の重い人を担当したときの気持、あるいは悲しくなるときなど、どんなふうに思っている

んだらうということ、今度は聞いてみたいなと思った。

- 裁判所というのはそう簡単に行けるところではないと思っていたのだけれども、一般の人が行って、直接見る、聞く、傍聴ができるんだということを知って初めて知った。
- どんな勉強をしたら弁護士や裁判官になれるんですか。将来なりたい職業、弁護士・検事。

出前授業をして頂いたおかげで、学校では子供たちに感じさせることができない部分、指揮者のすごさや裁判の実際、そして、子供たちの将来の職業に繋がるものを見せて頂くことが出来ました。本当にありがとうございました。

本稿は、平成20年4月19日大阪国際会議場で開催された国際ロータリー2660地区2008～09年度地区協議会・部門別協議会職業奉仕部門での三軒久枝先生の講演の録音記録より、地区職業奉仕委員岩本洋子が許可を得て抜粋・作成したものである。